

枕草子



いとめでたし!



2

春に一番美しいのは

文・天野慶 (歌人)
監修・赤間恵都子
(十文字学園女子大学教授)

千年と少し前、清少納言という女性が、見たこと、考えたことをつづった『枕草子』。毎回その一節を取り上げ、やさしく紹介します。今週は有名なこの段の冒頭を!

金曜に連載します。

春はあけぼの。やうやうしろくなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

春はあけぼの! だんだんと白くなってゆく山ぎわが、少し赤っぽく明るくなり、むらさきがかった雲が、細長くなびいてるの! (春はあけぼの「の段」から)

この段のお話は...



少納言ちゃん

終わった!

とはいえ、朝はまだまだ寒くて、ぬくぬくだらだらとそのまま寝ていたらどこぞではれど……。でもね、春にいちばんすばらしいのは、夜がほのかに明けるころ!! まだ暗い空が、東の山のはじっこからだんだんと白くなって、さらさらしてはひらひらとびんわり

夜が明けるさまにうっとり...

赤く明るく見えてきて。そこに赤紫色の雲が、ほそながく横になびいてるのが美しいの……。中国の詩人は「春眠暁を覚えず(春のねむりは気持ちがいので、夜が明けるのにも気が付かない)」「なんて言っで、こんなうっとりする美しい景色を見がしているのだから、もったいないいわね。でも、実は私たち「早く起きた」のではなく、「月見をしていて、気がついたら朝になっていた」なんてことがよくあったの。平安時代の貴族たちは、夜みかしたったのよ。

ふわあ、ねむい……。あ、ごめんなさい。ほくは清少納言さんが「うつくしきもの」の段で「かわいらし」と言ってくれたさび(子)ども(顔)のかいてある瓜だよ。よろしくね!



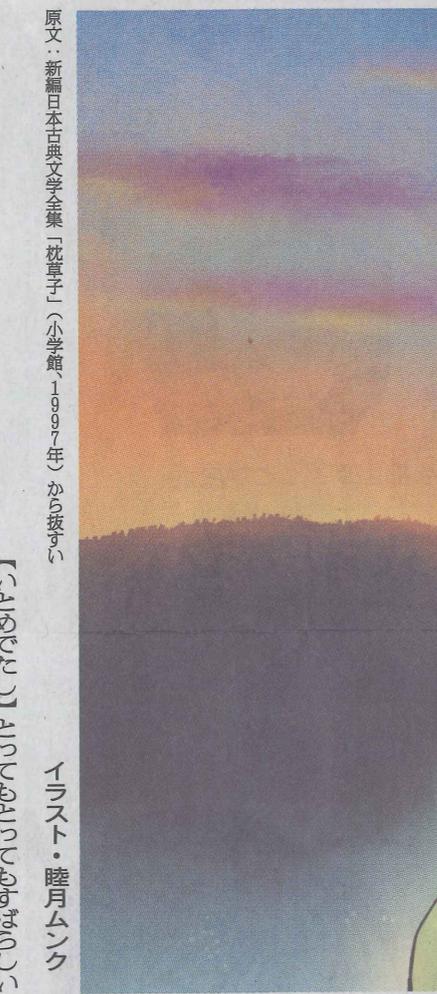
冬は、お母さんに「学校に行く時間よ! 起きなさい!」ってふとんをはがされるのがつらいけれど、暖かくなると気持ちよ〜い! つまでもねむれど、やっぱりふとんから出られなくなっちゃうんだよね。清少納言さんは思いつき「春はあけぼの!」って言い切っているけれど、読んだ人はみんな「本当かなあ。春といえは桜だから、お花見にびったりの屋間がいいんじゃないかなあ」と思ったかもね。

でも、そんな「あたりまえ」ではないところに美しさをみつけるのが、清少納言さん! お正月の初日の出みたいで、きみも明日、早起きして夜明けを見てみたら? きっと、きりっとした空気のなかすてきな景色を見られるよ。ほくはあけぼのを見たあと、二度寝しようかな……。



まが出る直前の時間帯のことだよ。

あまの・けい はば広いメディアで短歌の魅力を伝える。3人の子のお母さん。『百人一首おけいこ帖』(朝日学生新聞社)など著作多数。



*有名なこの「春はあけぼの」は、『枕草子』の一番はじめに出てくるよ。このあとの「夏」「秋」「冬」はそれぞれの季節で紹介するからお楽しみに! 「あけぼの」は、お日さ